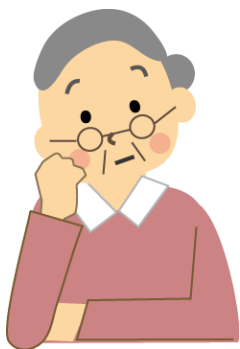


成年後見制度は、認知症・知的障害・精神障害等により判断能力が十分でない方々が、財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護等のサービス契約を結んだりするための支援をする制度です。

もしかして、しっかりしている時がなくて、常に判断が出来ない人だけが利用する制度だと思いませんか？

物忘れが多くなってきたし、訪問販売で必要のない高額商品を買ってしまうこともある。



### 補助

判断能力が不十分な方に対し、補助人が、重要な法律行為※のうち一部の同意や特定事項の代理の支援をします。

この場合、補助開始と、補助人への高額商品購入に関する同意権をつけることが家裁に認められれば、補助人が知らない高額商品の購入契約を後で取り消すことができます。

ちょっとした買い物は出来るけれど、遺産分割協議を自分で行うことは難しい。

### 保佐

判断能力が著しく不十分な方に対し、保佐人が、重要な法律行為※の同意や特定の事項の代理の支援をします。

この場合、保佐の開始と相続・遺産分割に関する代理権をつけることが家裁に認められれば、保佐人が支援できます。



### ※重要な法律行為(民法 13 条 1 項)

- (1)元本の領収・利用 (2)借財・保証 (3)重要な財産の権利の得喪 (4)訴訟行為 (5)贈与、仲裁合意 (6)相続の承認・放棄・遺産分割 (7)贈与・遺贈の拒絶等 (8)新築・改築・増築や大修繕 (9)一定の期間を超える賃貸借



- ◆ 保佐人に代理権を付けることや、補助人に同意権・代理権を付けるためには、本人の同意と家庭裁判所への申し立てが必要です。
- ◆ 成年後見制度は、家庭裁判所が申請を受付けて、ご本人の状況に応じて利用の判断をします。上記は一例であり、制度利用を保証するものではありません。

制度概要や利用手続きに関することなど、お気軽に社協へお問い合わせください。